

秋落ち症状の改善による水稲の生産向上

対象者 甲賀市水口町 集落営農法人U

【普及活動のねらい】

集落営農法人Uは、平成22年に設立され、水稲・飼料用米・小麦・大豆の栽培に取り組まれています。法人Uは、平成29年頃から水稲の単収低迷に悩まされており、法人の収益低下の原因の一つとなっていました。このため、昨年度、砂質土壌の水田における単収の低迷要因の解明に取り組んだところ、秋落ち症状の発生が確認され、一発肥料の普及や土づくりがされていないことが原因と考えられました。

この結果を踏まえ、当課では、水稲の単収向上による収益改善に向けて、土づくりの実施や生育量に応じた栽培管理等の秋落ち対策や秋落ち症状が発生しているほ場エリアの特定等について支援しました。

【普及活動の内容】

秋落ち水田の土質改善

秋落ち水田の栽培管理の改善方法を検討するため、堆肥を散布し土づくりを行った調査ほを設置し、生育・収量調査を行いました。その調査結果や生育の経過を法人と共有し、秋落ちを回避するための土づくりの取組への意識を高めてもらうよう働きかけを行いました。

ドローンを活用した栽培管理の実践と秋落ち対策が必要なエリアの特定

幼穂形成期頃にドローンを用いてNDVI値を測定することで追肥の要否を診断し、診断結果に応じた栽培管理指導を行いました。これにより、土づくりを行うことによる葉色の変化や秋落ちが発生しているエリア（葉色が低いほ場）を法人役員と共有することができました。また、診断に基づく、生育量に応じた栽培管理技術の習得を支援しました。

【普及活動の成果】

堆肥散布を行った調査ほにおいては、単収が約25%向上し、秋落ち症状の改善が確認できました。

（収量調査10aあたり435kg→548kg）その結果、土づくりの重要性を認識いただくことができ、秋落ちしやすいエリアにおいて堆肥散布を計画的に実施していくこととなりました。今後は、対策を実施するエリアの拡大を図るとともに、水稲の単収向上による法人の収益改善に向けて、栽培管理技術の定着等に取り組んでいきます。



生育の経過を説明し情報共有



ドローンによる生育診断